

校番	032	ホームルーム活動	生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
----	-----	----------	-------	-----------------------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	沼南高等学校	校長	沖井 信	生徒指導主事	松浦 祐子
-----	--------	----	------	--------	-------

取組事例名 『沼南祭でのクラス発表』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「お互いを認め合う力」	1	「主体的に行動する力」	3	「目標に向けて前進する力」	2

取組のねらい『全員参加』

○全クラスが体育館で行う発表に向けて、話し合い、準備、本番とクラス全員が役割を担って作り上げることができる。

取組の具体的内容『自分達にできること』

○過去のクラス発表の映像などを参考にしながら、受け継いでいくべき内容と自分達の個性を出せる内容を話し合い、生徒主体で発表内容を決めていった。
○発表内容がかぶらないよう、クラスから出された案の段階で、文化祭実行委員会で調整するようにした。(実際には調整の必要はなかった)

取組の課題・創意工夫『意見の相違と対話』

【課題】クラス内で意見が合わず、険悪なムードになるクラスが毎年あること。
⇒準備を進めていく中で、生徒同士の意見の違いや人間関係の変化について教員が情報共有を密に行い、必要に応じて生徒に助言する等、トラブルにつながらないように留意した。
【課題】行事そのものに参加したくない生徒がいること。
⇒その状況を教員が早めに把握し、どの役割ならできるかをリサーチする等、トラブルになる前に、生徒間の調整を図った。

取組の成果(効果)『達成感』

○体育館でのリハーサルや当日の本番では可能な限り生徒に運営を任せ、教員の指示を最小限にしたことで、クラスや学年の枠を超えて協力する場面が見られた。
○沼南祭後の生徒アンケートの結果より
「目的に向かって協力し、やり遂げることができたか」→「できた」「ややできた」79%
「担当した役割をきちんと行えたか」→「できた」「ややできた」75%
「(自分のクラス行事について) みんなで協力してできたか」→「できた」「ややできた」90%
「(自分のクラス行事について) 充実感があったか」→「あった」「ややあった」77%

今後の展開『次は何する?』

○生徒一人一人が役割を担い、責任を持って仕事をしたことで感じた「やればできる」「自分は必要とされている」という気持ちを、日々の学校生活でも感じられるよう、クラス内での役割を与え、全うさせる等の仕掛けを図る。
○クラスごとの取組である沼南祭のステージ発表で得た充実感や達成感が、規模の大きい「学年ごと」や「学科ごと」の取組(修学旅行、学科別発表会等)でも得られるよう、生徒が主体となって動く場面を増やしていく。

他教科との関わり『科ごとの特色ある発表』

○普通科は、ここ数年英語科の全面協力を受けながら英語劇に取り組んでいる。1年は昨年度の映像を参考にしながら自分達なりの味付けをした作品を、2年はセリフや発音がレベルアップし、ユーモア要素も取り入れた作品を披露した。



○家政科は、毎年圧倒的に多い女子生徒が中心となって発表内容を工夫している。今年は1年がダンス、2年は「いじめ」問題をとりあげて作ったオリジナル脚本の劇に取り組み、熱演した。3年はファッションショーを行い、プログラムだけでなくBGMや照明プランも生徒が考えることで、家政科で学んだ3年間の集大成としての華やかなステージを作り上げた。



○園芸デザイン科は、1年は「FFJ」の歌（日本学校農業クラブ連盟歌）を振り付きで発表、2年は学校や農場を舞台にしたチャレンジ動画を作成、3年は農場での生活の一コマを寸劇にする等、農業科で学ぶ意味と自分たちが果たすべき役割について考えた内容の発表となった。

